

## 第5学年 図画工作科学学習指導案

指導者 山本 明伸

### 1 題材名 色の魅力 発見！ ～「はじまりのまちプロジェクト」

### 2 題材について

#### (1) 育みたい「みがく眼」

本題材における「みがく眼」を「色がもつ特徴（色から受ける感じや色の組み合わせの効果）を捉え、色を効果的に用いて、イメージを豊かな表現へとつなぐための工夫を考えること」と考える。本題材は、写真（教師による提示）の鑑賞や「はじまりのまちプロジェクト」への参加の提案など、教師の意図性から始まる活動であるが、その中で、子どもが色の特徴を捉え、色による表現の面白さやよさを見出す経験を重ねることで、子ども主体の、感覚・感性を働かせる学びへと展開していく。図画工作科の教科の特性を生かして養われた「みがく眼」によって、広く、日常生活においても、子どもが造形的な価値を感じ取ったり創造したりする姿へと転移していくこと、子どもがよりよい生き方・在り方を創造していく姿が育まれることを期待する。

#### (2) 「みがく眼」を育む題材構想

本題材では、「みがく眼」を養うために、「色」に焦点をあて、感覚・感性を働かせる学びを構築する。そのための題材構成として、①色への関心を高める、②色に対する感じ方を広げる、③色と意図的に関わるという3段階で題材を構成する。特に、②や③の段階では、「はじまりのまちプロジェクト」として、まず、色遊びとして積極的に色に関わることで色の特徴を感じ、次に、個々が色の特徴を考えながら作品を制作・展示してみんなで「5白ゆめタウン」をつくり、そして、『5白ゆめタウン』のシンボリックな表現物をつくりたい」という思いから考えられた「ゆめタワー」を色の特徴を生かしてチームでつくるという状況を設定することで、主体性、協同性、共感性のある題材構想を組み立てていきたい。

#### (3) 「みがく眼」を育む指導と評価

子どもの色に対する感覚・感性を働かせる学びを目指し、①関心を高める→②感じ方を広げる→③意図的に関わると活動が展開するにつれて、教師の意図性から子どもの主体性へと移行させていく。また、この一連の活動では、表現と鑑賞は、それぞれ分離して行われるのではなく、双方を一体化させて指導することにより、価値を感じ取る感性と価値を創造する感性が往還的に働くことを期待する。特に、本時の活動については、形や大きさが統一された平面上での表現に限定することで、これまでに高めてきた「色」に対する感覚・感性を働かせる姿を期待する。そのために、子どもと教師の評価活動の充実も図る。具体的には、対象への関わりを豊かにするための、子ども同士の調整による類似テーマをもった子どもで構成するグループ設定、子ども主体の活動の中で共有化した評価の視点を生かした子どもの相互評価の充実、行動観察とともに子どもの自己評価の「図工レポート」を活用した教師の評価活動である。これらを組み合わせて子どもが感覚・感性を働かせる姿を見て取ることが、子どもの「みがく眼」を養う効果的な評価になると考える。

### 3 題材の目標

色がもつ特徴（色から受ける感じや色の組み合わせの効果）を捉え、色を効果的に用いて、イメージを豊かな表現へとつなぐための工夫を考える

### 4 題材構想（全6時間）

第一次 色遊びを通して、色の特徴を考える。・・・・・・・・・・2時間

第二次 彩色した材料を用いて、「5白ゆめタウン」をつくる。・・・・2時間

第三次 シンボルタワー「ゆめタワー」を色の特徴を生かして表す。・・・2時間（本時1／2時）

## 5 学習指導案

### (1) 目標

色から受ける感じや色の組み合わせの効果を捉え、表したいイメージの効果的な表し方を工夫している。

### (2) 学習指導過程

学習活動	問題を解決していく過程	教師の指導と評価
【題材の課題】	色遊びを通して、色の力を探ろう。 自分や友達を感じた色の特徴を生かし、「はじまりのまちプロジェクト」 として、5白のオリジナルのまち「5白ゆめタウン」をつくろう。 「こんなまちにしたいな」というイメージが効果的に表れるようにする ために、色から受ける感じや色の組み合わせによる効果を工夫しよう。	○ 子ども同士の共感的な活動の展開を目指し、制作過程の「5白ゆめタウン」から表したいイメージを想像して言語化した後、子ども同士の調整によって共通のイメージを持ったグループを設定しておく。
1 前時の振り返りと本時の課題を確認する。	「5白ゆめタウン」にまちのシンボル「ゆめタワー」をつくりたいな。色の力を用いると、「ゆめタウン」の楽しい雰囲気をより表すことができそうだ。	○ 前時までに高めてきた色に対する感覚・感性を働かせる状況づくりとして、立体で表すのではなく、全グループとも同じ形と大きさの平面上での色を用いた表現を行うという条件を設定する。
2 「ゆめタワー」を彩色する。	「5白ゆめタウン」のシンボルとなる絶妙な色の「ゆめタワー」をつくろう。	○ イメージの効果的な表し方を探ることができるよう、試行錯誤できる材料や用具を用意しておく。
(1) イメージが表れるよう、これまでに考えてきた色の特徴を生かし、個々で試し塗りを行う。	<div>自然味あふれるタワーにするために、草原の緑や空の青色、大地を表す茶色を組み合わせてみよう。</div> <div>キラキラ光り輝くタワーにしたいな。黄やピンクなど明るい色を取り入れよう。</div> <div>豪華なタワーにしたいから、鮮やかな色をたくさん取り入れてみよう。</div> <div>【色の特徴】 ・色から受ける感じ ・色の組み合わせの効果</div>	○ ともに課題を解決する状況づくりとして、試行錯誤を通して個々が考えた表現を持ち寄り、自他の表現の工夫を伝え合って調整し、最終的にグループ内で1つ表現に絞るよう助言する。 また、交流する時は、実際に試し塗りをした表現を言語とつなぎながら伝えるよう助言し、自他の表現の意図が分かるようにする。
(2) 試し塗りをしながらも、適宜、効果的な表し方の工夫についてグループ内で交流する。	ただ好きな色を使うのでは、イメージしていることが表れないよ。効果的に表すためには、色の特徴を生かすことが大事だったね。 例えば、私たち、きらきらタワーグループなら、黄色のような明るい色を多く用いて輝いている感じを表している工夫が多いね。でも、〇〇さんは、明るい色だけでなく、あえて暗い色も取り入れることで明るい色がより引き立つようにしているよ。 みんなで作る「5白ゆめタウン」のたった1つの「ゆめタワー」だから、もっと話し合ってグループで表したいイメージが強調されるようにしよう。	○ 明確な意図をもって色を取り入れている子どもの姿や、交流時に、根拠を明らかにして表現のよさを語っている子どもの発言を価値付け、「みがく眼」に転移していく。
(3) 個々が考えた表現をもとに、グループで1つの表現をつくり出していく。	<div>緑や黄緑などの同系色を用いると、全体的に統一感が生まれて、きれいだよ。</div> <div>色味を抑えた背景に明るい色で模様を描くと、キラキラの明るさが強調されるね。</div> <div>鮮やかな色でも、反対色を取り入れることで、両方の色が際立って豪華な感じになったよ。</div>	○ 次時における豊かな表現の展開につながる子どもの自己評価になるよう、これまでの自己評価の視点をもとに、本時の活動の中でのこだわりや対象との関わりの中で感じ取ったことを中心に振り返って「図工レポート」に記録するよう助言する。
3 本時のまとめと次時の課題を話し合う。	色にこだわり、色の特徴をよく考えて、「ゆめタワー」づくりを行うことができたよ。みんなでアイデアを出し合って色や表し方を考えたから、みんなの思いが込められたタワーになりそうだね。	